

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	フェアトレード・タウン運動にみる「公正さ」と地域社会の関係 - イギリスと日本のフェアトレード・タウン運動を事例として -
Title(English)	
著者(和文)	谷内田 絢子
Author(English)	Ayako Yachida
出典(和文)	学位:博士(学術), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第9906号, 授与年月日:2015年3月26日, 学位の種類:課程博士, 審査員:土肥 真人,樋口 洋一郎,大佛 俊泰,十代田 朗,坂野 達郎, 北島 健一
Citation(English)	Degree:., Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第9906号, Conferred date:2015/3/26, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	審査の要旨
Type(English)	Exam Summary

論文審査の要旨及び審査員

報告番号	甲第		号	学位申請者氏名		谷内田絢子	
		氏名	職名		氏名	職名	
論文審査 審査員	主査	土肥真人	准教授	審査員	坂野達郎	教授	
	審査員	樋口洋一郎	教授		北島健一	教授(立教大学)	
		大佛俊泰	教授				
		十代田朗	准教授				

論文審査の要旨 (2000字程度)

本研究は、『フェアトレード・タウン運動にみる「公正さ」と地域社会の関係ーイギリスと日本のフェアトレード・タウン運動を事例としてー』と題し、全7章で構成されている。

第1章「はじめに」では、本研究の背景、目的、先行研究、対象、構成を提示している。本研究では、現在欧州の地域社会を中心に広まるフェアトレード・タウン（以下、FTT）運動に着目し、運動の国際的発展を明らかにし、イギリスと日本の事例検証から社会における「公正さ」の広がりについて論じ、その効果と意義を考察することを目的としている。

第2章「フェアトレードの「公正さ」の概念」では、既往文献よりフェアトレード（以下、FT）の歴史、理念、活動内容にみられる「公正さ」を抽出し、FTの扱う「公正さ」について検討している。そして、FTの「公正さ」を【賃金・価格】【生産者の自立・発展】【地域開発】【環境】【人権擁護】【消費と生産の関係】【消費者の取組】【国際貿易等の諸課題】【文化】に分類し、FTは生産者・消費者に対し、経済・社会・環境的な「公正さ」を実現することを目的とする活動であるとしている。

第3章「フェアトレード・タウン運動の国際的展開」では、世界24ヶ国1598地域で展開しているFTT運動の、国際的な活動変遷を整理し体系的に提示している。FTT運動は、国際運営委員会が認証基準や方針など、運動の基本的枠組みを設定しているが、各国の運営では多様な認証方式と認証基準が採用されていることを明らかにしている。また各地域の推進団体を中心に、自治体、販売店、市民団体はFT推進活動に参加することを求められており、FTT運動は消費側地域にFT推進コミュニティを形成する新たな取組みであること、そしてこのコミュニティをとおしてFTの「公正さ」を広める機能を有していることを明らかにしている。

第4章「イギリスのフェアトレード・タウン運動における地域活動の実態～ガースタング町とブリストル市を対象として～」では、2001年に世界で初めてFTT認証を取得したガースタング町と2005年にフェアトレード・シティ（以下、FTC）に認証されたブリストル市を対象に、現地調査とヒアリング調査から、両地域の活動実態を明らかにし、その意義を示している。これらの地域では、FT商品の推進とともに、地域農業においてもFTと同様の【賃金・価格】や【消費と生産の関係】に不公正が生じているとの認識が生じ、公正な地域農業の振興が図られ、また、過去の奴隷貿易と現代貿易における課題学習や、地域環境活動・持続可能な都市政策の策定など、FTの【人権擁護】【環境】の「公正さ」が地域活動へ新たな影響を及ぼしていることを明らかにしている。

第5章「ロンドン市のフェアトレード・シティ活動」では、ロンドン市におけるFTC運動の展開を明らかにしている。ここではまず、6つのバラを対象とした現地ヒアリング調査を実施し、都市部に

における FTC 活動の実態を検討している。そして、ロンドン市の FTC は、推進団体“Fairtrade London”が市全体の活動を統括しており、地域活動は各バラの FT 推進団体が実施するという 2 層構造を持つことを示している。各バラでは地域店舗・飲食店での FT 販売など【消費者の取組】が推進され、学校授業や講演会では FT の【生産者の自立・発展】【地域開発】【国際貿易等の諸課題】に関して学ぶ消費者・環境教育が実施されていることを明らかにしている。また FT が人種や宗教を超えた地域の住民の繋がりを醸成しており、FT の【文化】の「公正さ」が、地域住民の対等な関係作りにも寄与することを明らかにしている。

第 6 章「熊本市のフェアトレード・シティ運動の事例」では、日本で唯一の FTC である熊本市を対象として地域活動の変遷と実態、および地域組織の活動に対する意識を明らかにしている。日本では、FTT 認証基準に「地域活性化活動の実施」が採用されており、熊本市の FTC 推進団体は、障害者支援団体との協働活動により、この基準を達成しているとしている。また、FT に参加する地域組織には、地域の有機農業、無農薬野菜を使用する団体もあり、FT の【環境】や【人権擁護】の「公正さ」が組織活動の理念と共通することが、FT 活動に参加する契機にもなりうることを明らかにしている。

第 7 章「総合考察・結論」では、第 4 章から第 6 章で明らかにした各地域の事例より FTT 運動の体系的な特徴を示し、FT の「公正さ」が地域社会へ与える影響について総合的に考察をしている。すなわち当初 FT の普及を目的としていた FTT 運動は、FT の国際的「公正さ」が地域に取り入れられることで、地域内の様々な公正さに影響を与えること、そして FTT 運動による生産者と消費者の直接交流は、文化や環境の異なる双方の地域課題を共有し共に学び合う公正な関係を構築することを指摘している。最後に、各章での成果をまとめ結論を述べている。

以上、本研究は、イギリスと日本の FTT 運動を対象として、FT の「公正さ」が及ぼす地域社会への影響を理論的かつ実体的に論じたものであり、情報環境学において貢献するところが大きい。よって、本論文は、博士（学術）の学位論文として十分な価値を有するものと認められる。

注意：「論文審査の要旨及び審査員」は、東工大リサーチポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。